

豊臣秀長と高取

天理大学 天野忠幸

はじめに

○室町・戦国時代の大和

幕府の朝廷保護政策、守護不設置、藤原氏の尊重＝氏寺興福寺に事実上委任
山城ですら有り得ない厚遇、一種の特殊論、「神国」

○大和武士の立場

在地で武力を持つ者はどう見られるのか（暴力団 or 警察官）

興福寺（衆徒＝僧体、筒井氏）・春日大社（国民＝俗体、越智氏）の守護者として公認
デモンストレーションとしての春日若宮祭礼（おん祭り）の流鏑馬

平田党（岡氏、万歳氏）、長川（中川）党（箸尾氏）、他国衆

13 世紀半ば以降に長谷川党（十市氏）、乾党（筒井氏）、南党（檜原氏、豊田氏）
南北朝期に散在党（越智氏）

○散在党

越智氏（高市）、曲河氏（高市）、子嶋氏（高市）、柳生氏（添上）、俱志羅氏（葛下）、
片岡氏（葛下）、小倉氏（山辺）、深川氏（山辺）、堤氏、南脇氏、奥田氏、脇田氏
越智一族…玉手氏、坊城氏、鳥屋氏、加留（軽）氏

1、越智家栄

○越智氏の先祖

大和源氏を自称、「源家弘」（鎌倉初期）、「源家栄」「源家増」（戦国期）
一方で、『興福寺年代記』では伊予河野氏、『南行雑録』では楠氏

○南北朝時代の動向

弘安 8 年（1285）高市郡から葛上郡の「悪党交名」に「越智住人貞家九郎兵衛入道」

正中元年（1324）越智四郎が鎌倉幕府に対して挙兵

貞和 6 年（1350）足利直義が兄尊氏に敗れて南朝方の越智伊予守を頼る

興福寺や筒井氏は幕府方

越智氏や宇智郡の二見氏は南朝方（北畠氏や楠木氏の支援）

○大和永享の乱（1429～1439）

井戸氏による頼称坊殺害事件、豊田氏が井戸氏に報復

井戸氏 + 筒井・十市氏、将軍義教 …北朝

豊田氏 + 越智・箸尾氏、大覚寺義昭、鎌倉公方持氏、北畠満雅・小倉宮聖承 …南朝

○嘉吉の変（1441）

義教に弾圧された畠山持国・越智家栄らの復権

持国の支援で越智春童丸（家栄か）が檜原氏を討ち再起

畠山氏の内紛、義就（持国実子）・越智家栄 VS 政長（持国甥）成身院光宣・筒井順永

○応仁の乱（1467～77）

東幕府：足利義政、細川勝元、畠山政長、成身院光宣、筒井順永　＋後花園・後土御門
尋尊「東大将ハ武田・成身院法印」「今度一天下之大乱ハ此仁申沙汰也」

西幕府：足利義視、山名宗全、畠山義就、越智家栄

義就ハ越智氏の壺坂寺より上洛、義就が修羅法師を家栄に預ける

→和泉守護へ、家格を突破

吉野熊野で「南主蜂起」、新年号「明応」（1469）、翌年に壺坂へ迎える、西軍「南帝」

→南北朝以来の南朝との繋がり

乱の終わり

足利義視や大内政弘ハ東幕府に降伏・赦免

畠山義就ハ越智家栄・古市澄胤・鷹山奥頼弘を率いて河内・大和を平定

○明応の政変（1493）

将軍義植が畠山義豊（義就次男）討伐のため親征

細川政元と日野富子が挙兵、越智家栄と古市澄胤に通告、義植を更迭、義澄を新将軍に

→家栄の上洛、「板輿、唐笠袋白持之、礼馬・乗替等引之」　…守護代待遇

→修理大夫に昇叙（異例の家格上昇）

斯波・山名氏の庶流家、能登守護畠山氏、下総守護千葉氏、関東管領扇谷上杉家

2、羽柴兄弟と大和

○大和国主・筒井順慶

天正 10 年（1582）山崎の戦い、「洞ヶ峠」ハ嘘、順慶ハ秀吉に起請文

清須会議、光秀に代わり、秀吉が順慶の後見人へ、「大和取次」伊藤掃部助

天正 11 年（1583）郡山城の天主が完成、越智氏が滅亡

天正 12 年（1584）2 月、順慶が自ら越智へ赴き高取城を築城、8 月に順慶死去

小牧・長久手の戦いで越智氏は織田信雄・徳川家康方

○大変革の天正 13 年（1585）

小牧・長久手の戦いの戦後処理

尾張や伊勢だけでなく、関東・北陸・堺・岸和田・四国を巻き込んだ戦い

朝廷ハ秀吉に将軍就任を打診　…秀吉の圧勝

織田信雄の大坂下向　…信雄を権大納言、秀吉ハ内大臣

紀州・四国攻め　…秀長が和泉・紀伊・大和を拝領

新しい中央政権の誕生

秀吉が関白に就任　…武家初、ポスト室町幕府の具現化、豊臣姓下賜

秀長が参議三位右近衛中将に昇進　…公卿、将軍義昭に次ぐ地位

→多聞院英俊「秀吉新王ニナリ、秀長ハ又関白ニ成ル、歟」世間に強い衝撃

○大坂の豊臣関白家を守る羽柴御三家

大和羽柴家（秀長）：大和・和泉・紀伊、居城ハ郡山

近江羽柴家（秀次）：近江・美濃、居城ハ八幡

丹波羽柴家（小吉秀勝）：丹波東部、居城ハ亀山

○秀長の衝撃

織田信長

尾張衆の原田直政を大和守護に任命、興福寺は猛反発、大坂本願寺合戦で討死
官符衆徒棟梁の筒井順慶に大和を預け置く
織田信重の懇望を却下、大和は神国

豊臣政権

筒井定次をはじめ衆徒・国民も伊賀へ国替
興福寺にすれば打撃（預け置いた荘園から徴税者、おん祭の奉仕者がいなくなる）
筒井定次にとっては必ずしも打撃ではない
衆徒・国民をサラリーマン家臣化 …秀吉の思惑は当主の権限強化、徳川・上杉も
ただ衆徒・国民は本領を離れることに強い不満

3、大和三城体制

○郡山城

天正 8 年（1580）信長が大和一国に破城と検地を指示
筒井順慶は筒井城を破却、郡山城を預け置かれる
郡山城は大和支配者が住む政庁（公的城郭） …国主の地位を継承
天正 14 年（1586）築城の手伝いを寺社に命令、8 月に法隆寺が免除を申請するも却下
天正 15 年（1587）3/6 根来寺の大門を紀ノ川・淀川・木津川を輸送し移築
→秀長の武威、英俊「人民の大悩なり」
8/10 春日大社の水谷川から大石を徴集、人夫が神慮を恐れ退散
天正 16 年（1588）正/21 奈良中の家ごとに「五郎太石」を賦課
薬師寺・西大寺・法隆寺は免除、興福寺・春日大社・奈良を狙い撃ち
文禄 5 年（1596）慶長伏見地震、天主を破損
→『郡山城主伝記』神火が出現する生駒山の鬼所（鬼取）より材木伐出
「魔所」で木を切ると「震動雷電」したため、人々は退散
秀長は大地の底まで我が物と怒り伐採したため天主倒壊 ⇔中世 VS 近世

○秋山城（後の宇陀松山城）

宇陀三人衆（秋山氏・沢氏・芳野氏）の存在
沢氏は伊勢北畠氏との主従関係、宇陀三人衆に小川氏を加え郡内一揆
神楽岡城：天文 21 年（1552）秋山宗丹が吉田兼右を招き「鎮神之儀」
天正 12 年（1584）宇陀三人衆は伊勢松坂の蒲生氏郷の与力へ
天正 13 年（1585）「大和取次」伊藤掃部助が入部
小牧・長久手や四国攻めで筒井勢の検使、筒井定次より郡山城を接收
→秀長の筆頭家老、伊勢への備え、伊賀の筒井定次の取次関係が継続
天正 14 年に熊野一揆との戦いで討死、高野山に埋葬
天正 14 年、かつての大垣城主加藤光泰が入城
天正 16 年、羽田正親（小泉）が預かる →秀長の与力（秀吉の直臣）から秀長領へ
天正 17 年、多賀秀種（堀秀政の弟）が入城、「普請」

○高取城

越智氏の詰城、壺坂寺に隣接、貝吹山城と共に整備

天正 11 年（1583）筒井順慶が松蔵弥八郎を越智に派遣

天正 12 年（1584）順慶自ら高取城を再建

→大和南部の監視

越智氏が織田信雄・徳川家康に味方

吉野川を挟んで対岸に金峯山寺（後醍醐天皇が頼った吉野の宗教勢力）

天正 13 年（1585）尾張出身の本田利朝が 25000 石で入城

4、高取城主の本田利朝（後に俊政か）

○秀長・秀保期

『系図纂要』では尾張岩倉の水野利忠の嫡男、織田信長の家臣

天正 11 年（1583）3/20 秀長家臣として初登場

福知山領にある「本田半右衛門尉」の知行に賦課された漆を百姓が延引（『上坂文書』）

天正 13 年（1585）高取城 1 万石へ …『系図纂要』では父利忠義のこととする

娘が加藤光泰（秋山城主時代か）の次男光直に嫁ぐ

天正 16 年（1588）4 月、聚楽第行幸、秀長に隨身、「従五位下・因幡守」に任官

同年 6 月の毛利輝元の郡山訪問時には「本田武蔵守」（毛利家の誤記？）

文禄 4 年（1595）4 月、秀保死去

『駒井日記』では「一庵（横浜良慶）・藤堂佐渡（高虎）・羽田長門（正親）・すきわか
越後（無心）・宇田下野（頼忠）・本田因幡（利朝）・治部法印（桑山重晴）・村田彦
六・村田長介・小堀新介（正次）」が葬儀を準備

○秀吉期

天正 20 年（1591）5/3、秀吉→岐阜の小吉秀勝（『開善寺』）

朝鮮渡海、利朝らの船を遣わす

同年 5/14、秀吉→利朝（『佐藤行信氏所蔵文書』）

対馬に御座所を普請するため藤堂高虎と共に対馬へ渡海せよ

同年 5/29、秀吉→？（『布田正之氏所蔵文書』）

脇坂安治・藤堂高虎・本田利朝・熊谷直盛・垣見一直に塩を渡せ

同年 5/29、秀吉→脇坂安治・藤堂高虎・本田利朝・熊谷直盛・垣見一直（『思文閣墨蹟
資料目録』）、対馬へ渡り帳面の通り船数を受け取れ

文禄 2 年（1593）6/1、秀吉→山崎家盛・宮木豊盛（『思文閣古書資料目録』）

小川祐忠・垣見一直と共に壱岐勝本に在陣、奉行として対馬への「次舟」の業務

同年 7/10、秀吉→松浦隆信（『松浦文書』）

小川祐忠と利朝に壱岐諸浦で調査した船を渡せ

同年 8/13、秀吉→大和船七十七艘・とかい（東海）舟十二艘（『光徳寺文書』）

壱岐勝本で利朝の指示により朝鮮に渡海する人数を載せよ

同年 12/24、秀吉→利朝（『光徳寺文書』）

鯛 1 折と椎茸万を贈ってくれたことに謝す

文禄4年（1595）8/3、秀吉→利朝（『光徳寺文書』）

藤堂高虎分 5000 石を加増、合計で 15000 石

慶長3年（1609）1/17、秀吉→本田利朝・多賀秀種・宇多頼忠・小川祐滋（『尊経閣』）

明・朝鮮が蔚山を攻撃、増田長盛を派遣する

路次の兵糧を明石・備前・広島・名島・釜山で受け取れ

「大和衆」の枠組み

○家康期

慶長15年（1610）死去、3万石（秀吉の伏見築城時で15000石）

おわりに

○秀長の遺したもの

御三家の構想 …紀伊が大和羽柴家から浅野家を経て、紀州徳川家へ

大和三城 …郡山藩（奈良、大坂、京都の守護）

宇陀松山藩（福島、織田、天領）

高取藩（譜代植村氏）

参考文献

天野忠幸『大和大納言豊臣秀長 補佐役か、もう一人の秀吉か』（平凡社、二〇二五年）

河内将芳『図説 豊臣秀長』（戎光祥出版、二〇二五年）

北川 央『豊臣家の人びと 一栄光と悲哀の一族』（三弥井書店、二〇一一年）

黒田基樹『羽柴秀長とその家臣たち』（角川選書、二〇二五年）

黒田基樹・柴裕之編『羽柴秀長文書集』（東京堂出版、二〇二五年）

名古屋市博物館編『豊臣秀吉文書集』（吉川弘文館、二〇一五～二四年）